

当院での無痛分娩について

みやけウィメンズクリニック

1. 無痛分娩の診療実績

2016年	9件
2017年	13件
2018年	18件
2019年	5件
2020年	8件
2021年	6件
2022年	8件
2023年	47件
2024年	102件

2. 当院での無痛分娩の標準的な方法

当院では医学的適応（血圧上昇など）がある方に加えて、ご希望される方にも計画的に無痛分娩を硬膜外麻酔にて実施します。硬膜外麻酔とは、背骨の中にある硬膜外腔にカテーテルを留置して、局所麻酔薬を注入し除痛を得る方法です。過度に除痛を図ることによって子宮の収縮が妨げられてしまうと分娩の進行が得られないため、基本的には分娩促進剤も併用しながら実施します。

予定した前日に入院し、予め硬膜外麻酔カテーテルを留置します。当日朝より陣痛促進剤による分娩誘発を行い、痛みが生じた時点で局所麻酔薬を使用し除痛を図ります。

安全を最優先に行うため、祝休日や夜間には対応できません。

局所麻酔薬使用中は食事を摂取できず、清澄水（水・お茶・果肉を含まないジュースやコーヒー）のみ摂取可能となります。また歩行が困難となるため、排尿は約3時間毎に導尿によって行います。

メリット

- ・ お産の痛みが軽減できる
- ・ 疲労が少ない
- ・ 痛みに対する恐怖を回避できる

デメリット

- ・ 分娩時間が長くなる
- ・ 器械分娩（吸引分娩や鉗子分娩）の頻度が増加する可能性
- ・ 低血圧や体温上昇を来しやすい

- ・ かゆみを感じることもある
- ・ 足の感覚が鈍くなり力が入りにくくなるため、定期的に導尿を行います
- ・ 費用負担が増える

3. 無痛分娩の費用

硬膜外無痛分娩を導入し経膣分娩を得られた場合、分娩費用に 100,000 円が加算されます。すべて自費診療となります。

4. 分娩に関連した急変時の体制

無痛分娩の安全な提供体制構築のため、「無痛分娩マニュアルおよび看護マニュアル」を作成し、院内の勉強会を通じて、自主点検表を用いながら適切な対策を講じています。

- (1) 麻酔担当医が直ちに対応可能な体制であること
- (2) 緊急事態に対応できる薬剤と器材（除細動器、気道管理のための器材）ならびに日本麻酔科学会の「安全な麻酔のためのモニター指針」の定める機器が常に準備されていること

麻酔器の有無	あり
除細動器（または AED）の有無	あり
母体用生体モニターの有無	あり
蘇生用設備・機器の有無	あり
緊急対応用薬剤の有無	あり

- (3) 急変時においても適切に記録を行うこと

以上のような急変時の対応を励行すると共に、近隣の高次医療施設との医療連携を図り、スムーズな搬送システムを構築しています。

5. 危機対応シミュレーションの実施歴

2020年 7月 30日

2021年 7月 22日

2022年 8月 4日, 6日, 23日の計3回

2023年 11月 1日, 15日の計2回

2024年 11月 19日

6. 無痛分娩麻酔管理者および麻酔担当医の麻酔科研修歴、無痛分娩実施歴、講習会受講歴

a. 吉田 昌史

(1) 麻酔科研修

2002年11月～2003年1月の3ヶ月（全身麻酔 33件、脊椎麻酔 13件、硬膜外麻酔 24件）

(2) 無痛分娩実施歴

- イ. 防衛医科大学校病院 2005年8月～2007年7月および2008年10月～2012年9月の間に計11件
- ロ. 国立循環器病研究センター病院 2013年10月～2015年2月 計5件
- ハ. 医療法人社団ファータイル みやけウイメンズクリニック 2015年8月～2024年12月の間に計213件

(3) 講習会受講歴

母体救命 J-CIMELS ベーシックコース	2024年 6月 30日
NCPR フォローアップコース	2021年 7月 17日
母体救命 J-CIMELS 硬膜外鎮痛急変対応コース	2024年 1月 14日

7. 日本産婦人科医会偶発事例広告・妊産婦死亡報告事業への参画状況

医療における安全性を向上するためには、個々の有害事象ごとに原因分析を行い、再発防止策を講じなければなりません。今後も適切な情報提供を享受するために日本産婦人科医会偶発事例広告および妊産婦死亡報告事業へ積極的に参画していく方針です。

8. 無痛分娩に関わる助産師・看護師について

無痛分娩研修終了助産師・看護師数	0名
NCPR 資格保有者数	20名

9. ウェブサイトの更新日時

2025年 1月 1日